

# アジアの友

The Asia-no Tomo

4-5

APRIL-MAY

2010

## 対談●工藤正司 VS ゲン ドク ホエ 「燃えつきめ建国への思いと、あの頃」

ドンズー日本語学校副校長 ゲン ティー ユエンさんに聞く  
学校運営と（ベトナムの）日本語学習者事情



月20日発行

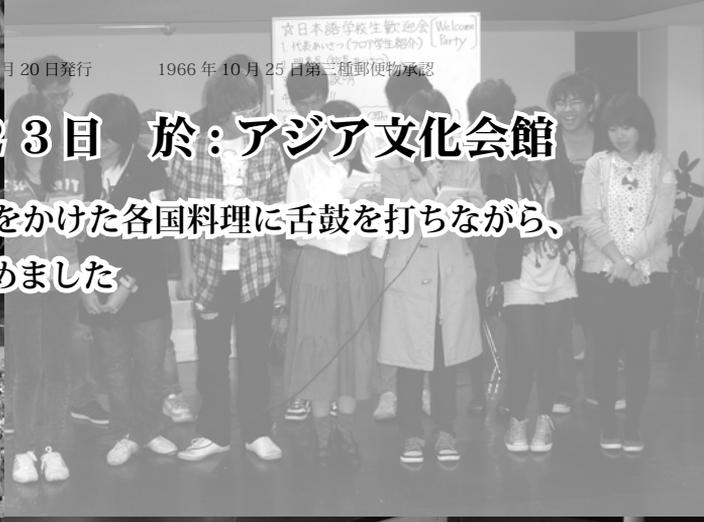
1966年10月25日第三種郵便物承認

☆日本語学校生歓迎会 (Welcome Party)

# 新人生歓迎会!

2010年4月23日 於：アジア文化会館

先輩達が腕によりをかけた各国料理に舌鼓を打ちながら、  
お互いの親交を深めました



# アジアの友

2010年4-5月号 第484号

## 目次

- 2 巻頭  
対談 工藤正司 VS ゲンドク ホエ  
「燃えつきぬ建国への思いと、あの頃」
- 13 連載紀行文  
ドンズー日本語学校副校長 ゲン ティー ユエンさんに聞く  
学校運営と日本語学習者事情
- 18 インタビュー  
クリコフ マキシムさん  
(東京芸術大学大学院 ロシア出身)
- 23 知友会通信 奨学金・イベント情報

### <表紙写真>

第7回留学生文学賞で奨励作品賞を受賞したクリコフ マキシムさん。大好きな我が家である国際交流協会稲荷台ハウスのコモンルームにて

# 工藤正司 VS ゲンドクホエ

アジア学生文化協会常務理事

ドンズー日本語学校校長

## 燃えつきぬ 建国への思いと、あの頃

目まぐるしいほどの勢いで経済発展を続けるベトナム。急速に近代化するその姿を見ると、少し前までそこで起こっていた悲劇と混乱が、夢の中の出来事であったかのような錯覚さえ覚える。

ベトナムが今の姿に変わるほんの少し前の時代、祖国の発展を夢見て日本に留学し、ベトナム人留学生のリーダーとして、勉学のみならず反戦運動や後輩留学生達の支援のために、その身をなげうって奔走した人が NGUYEN DUC HOE (ゲンドクホエ) さんだ。

ホエさんは、1959年から1973年まで日本に留学。京都大学で原子物理学の学士号を取めた後、東京大学大学院に進学し修士課程を修了する。上京後は新星学寮（(財)アジア学生文化協会の母体）で生活し、アメリカ軍の北爆反対運動に取り組むとともに、東遊学舎を設立。他の寮生の協力も得て生活に困窮する若いベトナム人留学生を住ませ、勉強を教えるなど後輩たちのために献身的な活動を行った。

そして帰国後の1991年、祖国発展のため日本から科学技術を入れようと、日本語教育を行うためホーチミン市にドンズー日本語学校を設立。多くの日本語学習者を育てるとともに、将来の国づくりに尽力する人材を育成するため、これまで1000名近い留学生を日本に送り出してきた。

今回はNPOベトナム子ども基金<sup>(※1)</sup>の主催による、ホエさんと、新星学寮でホエさんと苦楽を共にした、当協会常務理事・工藤正司との対談の模様をお伝えします。

**司会** ホエさんと工藤さんは1964年から新星学寮でお互いに議論を交わしたり、闘ったり、仲良くなったりを繰り返してきたと聞いています。

**ホ工** ここでまた会えることが嬉しいですね。私は留学生として来日して今年で51年になりますが、友人は、新星学寮、ABK（アジア文化会館）、AOTS（海外技術者研修協会）の友達しか残っていません。そしてその友人達が私の事業に参加してくださっている。今日のドンズー日本語学校発展の陰にはやはり新星学寮、ABK、AOTSの姿が見えます。工藤さん、新星学寮とABKの代表としてドンズーからの感謝を改めて受けて下さい。

**工藤** みなさんこんにちは。私は工藤です。今ホエさんからありがたい言葉をいただき本当に感謝します。実は今日のテーマは「ホエ先生と工藤のバトルトーク」となっていますが、これは主催者の趣向の現れで、2人を戦わせたいようですね。ところが見て分かる通り、2人はとても仲が良いんです。でも仲は良いけど意見が合わないところもあるんですね。それを話してみたいと思います。

まずバトルには3つの意味合いがあるのだと思います。1つはベトナムの頑固者と日本の頑固者だそうです。ですからドンズーの留学生は日本に留学すると非常に悲劇なんです。つまりベトナムではホエ先生にしごかれて、日本に来て自由になったと思ったら日本のホエ先生みたいな工藤がいてまたしごかれる。本当にドンズーの留学生は悲劇だと言っていますけれど、お許し下さい。2番目の理由は私は白髪で、ホエ先生は禿なんです。白髪と禿のバトルだそう

です（笑）。3番目は、内容的なものでこれは後でおいおいお話ししたいと思います。

まず私がホエ先生に最初に会ったのは、どういう経緯だったかというのを話してみたいと思います。大体が、ホエ先生は自分のことを偉そうに言いませんから、私の今日の話はそばで見ている私を感じたホエ先生について話してみたいと思います。そうすればホエ先生のことをもっとよく理解できると思います。

初めてホエ先生にお会いしたのは1964年、昭和で言うと39年ですね。実はどこで会ったかというと新星学寮という寮で会ったんです。この寮に同期で一緒に入りました。ホエ先生は京都大学の学部を卒業して東大の修士課程に進学するために上京して、縁があって新星学寮に入りました。私は電気工学を専攻する学部の3年生でしたが、たまたま友達から新星学寮に一緒に行こうと誘われて、嫌々行ったんです。それが同期だったのでよく覚えています。

そうして一緒に生活が始まったのですが、私が知った最初のホエ先生は、掃除の仕方が非常に熱心だということ。新星学寮は自治寮で炊事当番、掃除当番、全部自分たちでやるのですが、炊事は夜2人、朝1人で22人分の食事を・・・実際には欠食する人もいますから15～16人分を作るのですが、22人の寮生だとだいたい1週間に1回くらい当番が回ってくるわけですね。

それから掃除は2グループに別れて、半分ずつ、朝7時に起きて寮内を一斉に掃除するというやり方でした。ですからある先輩は大学に貼り出す寮の案内に「1週間に6日食事付き、2日に1回掃除をしてもらえます」と謳っていましたが、それにつられて入った人も



工藤正司

いたようです(笑)。

ホエさんはそういった掃除や食事当番に非常に熱心でした。ホエさんは、野上先生という小説家の野上弥生子の息子さんの研究室に入って核物理の研究をしていましたから、そういう優秀で天才のような人が、生活でもちゃんとやれるんだなあと感じたのが最初のホエさんの印象でした。

それから入寮した次の年の2月、アメリカが北部ベトナムに爆撃を始めました。私はベトナム戦争というとその時からのことを思い出します。それは「北爆」と言いましたが、その北爆の1週間後に、日本各地で学んでいるベトナムの留学生200名弱の、ほぼ全員が東京に集まって北爆反対のデモをしました。霞が関の官庁街をデモしたのですが、このデモを組織したのがホエさんだったんです。

その当時ベトナムから日本に留学していた

学生は北の共産主義に反対する南から来ていましたから、アメリカや多くの日本人は、アメリカが北ベトナムを叩くことを支持すると思ったんですね。ところがベトナムの学生は「北爆をやめてくれ」とデモをしたのでびっくりしたんです。聞いてみるとホエさんたちの主張は「同じベトナム人を殺さないで」というものでした。

そのデモがきっかけとなってブー・タット・タンさんという当時留学していたベトナム人学生に事件が起こりまして、寮を中心に「ブーさんを守る会」を作って支援運動をやりました。それがホエさんとの内的な意味での出会いだったと思います。その事件がなかったら、私もその後ここABKで仕事をするにはならなかったのではないかと思いますし、ホエ先生もこのような道に行かなかったかもしれませんね。ですから新星学寮での出会いは、ホエ先生にとっても、私にとっても運命的な出会いだったと思います。

ブーさんの支援がどうだったのかというのは長くなるので止めます。もし機会があればまた話しましょう。

その事件がやっと解決したのは夏ごろでしたね。そしてホエ先生は事件が解決した後の秋ごろ退寮したと思います。それはなぜかというと、東遊学舎という寮を自分でつくったんです。ホエ先生は自分が核物理なんかを勉強しているのはベトナムの現状に合わないという結論を出したんだと思います。その当時は戦争が激しくなってきましたから、ベトナムから亡命の形で日本に留学する学生がどんどん増えてきたんですね。ところが現在もそうですが、経済的にはもっと厳しい状況でし

たから、ベトナムから留学してくる学生達は住むところも保証されない、勉強もなかなかできない、そういう状況の中で、誰かが彼らを支援しなければならない。ホエ先生は自分がやらなければならないという結論を出したんだと思います。

それで、東遊学舎という寮を自らつくって、そこに若いベトナム人留学生を泊めて勉強を教えるという支援を始めたんです。その時、新星学舎からも支援する学生が必要ということで、今日参加しておられる清水さんとか3～4名の日本人学生が入り替わり立ち替わり支援をしていたのですが、何しろホエさんは頑固者でしたから、いろいろと大変なこともあったようですね（笑）。

東遊学舎をどうやって作ったかという、ホエ先生はお金はゼロで、借りてやるなどということではできませんから、ただで建物を貸してくれる人を探して始めたわけです。当初はボロボロのゴミだらけの建物を、日本人学生がいっしょになって掃除をして、ペンキを塗って、住める状態にしたわけです。そして若い学生を預かって支援したわけです。

ホエ先生は東遊学舎運営のために全部お金を注ぎ込んでいたのですが、その時の思い出話で、ホエ先生の人柄を表す話があります。ABKの前の理事長だった田井さんがよくホエ先生のことを心配してお手伝っていたのですが、田井さんは私よりも20歳も上ですから、その時でも相当なお歳だったと思います。その田井さんと私が真夏のある時にホエさんと一緒に歩いたのですが、暑くてたまらないんですね。で、田井さんは年配ですから、「タクシーなんか3人で乗れば安くつくものだから乗りましょうよ」と私なんかつい言って



グエンドク ホエ

しまうのですが、ホエ先生は絶対に乗らない。そのお金を節約して東遊学舎に入れたい、という人でした。そのことを今でも鮮明に覚えていますね。あの暑い中をよくもタクシーに乗せなかったなと（笑）。

私がホエさんを思う時、もっとも驚くことは、ホエさんが1974年に帰国していったことです。ベトナム戦争が終わるのは75年ですから、戦争の終わる直前、もっとも戦争が激しくなって雌雄を決する時期が迫っていた時にホエさんはわざわざベトナムに帰って行ったんです。多くの若い人が逃げるように日本に留学してくる時期に、日本にいる人がわざわざ帰国するというのはバカだとよく言われたそうです。

ホエさんは若い学生達の面倒を見ていたのですが、祖国では戦争で同胞がどんどん死ん

でいっているのに海外にいて安全なところでどんなに立派な仕事をしていてもダメだと。だから帰るんだと言って帰って行ったんです。私はそのホエさんの姿を見て、とても真似できないと思いました。だから何でもホエさんの言うことは「はい、さようございますか」と、聞いているわけです。だからバトルどころじゃないんです（笑）。

ただ、ホエさんと私と意見の合わないところが1つだけあったので、紹介したいと思います。

ホエさんは東遊学舎を運営するためにいろいろな人の協力ももらっていましたから、その人たちに感謝の言葉を述べたいと、1年、2年ごとに記念祭をやっていました。その時、東遊学舎の紹介や感謝の言葉を入れたパンフレットを作るのですが、ホエさんは最後に入れる日本語の挨拶がちょっと心配だからと言って私のところに日本語を直してくれと来るんですね。で、これは毎回そうだったのですが、夜になるとやって来て、私は少ししか直さないのですが、ある部分になると必ず議論になってしまう。まさにバトルになってしまうんです。そのバトルが終わるのが朝方4時頃になってしまう。もう2人ともくたびれてまあいいやとなって、一応妥協した案で終わるのです。でも次に来た時にまたちゃんと同じことが書いてあるんですね。それでまた議論になってしまうんです。

それは何かというと、ホエさんは北部ベトナムの共産勢力、あるいは南の解放戦線、そういう勢力を批判しているんです。独立を獲得して民族を解放するために戦っている人々を批判しちゃうダメだというのが私の意見なのですが、ホエ先生はベトナム民族の伝統文



新星学寮

化はこれによって破壊されていると。将来必ず問題が起こってくると、ホエさんは私の意見を認めないんですね。私はしかし、今は独立がなんとしても大切なことだから、それをやっている中心の勢力を批判しちゃうだめだと切り返す。2人とも頑固ですから、ずっとお互いの主張の繰り返しですね。それで4時頃になってヨロヨロした文章にしてその場を収めるのですが、この次に持ってくるホエさんの文章にはまたまったく同じことが書いてあるわけです。

今、独立を達成したベトナム社会を見ると、当時のホエ先生の指摘は、その通りと思います。私は、1994年、初めてベトナムを訪問しました。まさかあんなに激しく戦争状態にあったベトナムを自分が訪問できるとは思っていませんでしたから、平和を回復したベトナムを訪れることができて、それは夢のようでした。

最近の訪問は4年前の2006年で、その間2回くらい訪問しましたが、つい最近十数年経ってから行ったベトナム社会は非常に変わっていて、ベトナムの人々も変わっていると感じました。人々の変化は決して良い方向ではありませんね。

さて、先ほどもホエさんは、このトークに先立って、主にドンズー留学生派遣のことをお話しましたが、ホエさんが最も大きく後世に残すことができるものは、恐らくドンズー留学生を育てたことと、ベトナム子ども基金で支援した子供たちだろうと思います。このことがおそらくベトナム社会にもっとも大きく影響して残ることなのではないでしょうか。

でも私は非常に冷たくて、その2つともに全然協力してないんです(笑)。私はホエさんとはこういう関係ですから、子ども基金についてもドンズー留学生についても支援する一番責任ある立場にあるのだと思うのですが、全然やってないんです。子ども基金もドンズー日本語学校も幸いにして一緒に取り組んでくれる方がいますからそちらに押し付けて逃げているんです。

実は私は新星学寮に今も住んでいまして、寮には支援してあげないといけない学生がいたり、その友達を連れてきたり、私以外に助けようも無い学生がいるものですから、他に助けしてくれる人がいるところはごめんなさいと言って逃げているわけなんです。そういうわけでありますので、どうかお許しいただきたいと思うのですが、バトルにもならないよ

うなバトルの話でございます。

ホエさん、言いたいことをどうぞ。

**ホ工** 工藤さんのおっしゃった通りです。学生時代の反抗、留学生時代の反抗、私がいるところ必ず問題が生じる。今、家内も「あなたがいなければ良かったんじゃないか」と言っています。私がいると必ず問題を起こすんですね。たしかに私の性格から言うと、妥協はしない。自分が正しいと思ったら最後までやる。それから一生をかけてやる、そういうタイプですね。口で負けても一生をかけて必ず結果を出す。そういう意味で今の私には恐れはありません。この性格は小さい時からで、日本留学もそれが後押しとなりました。

実は私は勉強がよくできたので、国家に選ばれてフランスに留学することになっていました。そしてそのための準備を進めていたのですが、1か月前に外交の問題が起こり、私のフランス行きは中断してしまいました。この中断は仕方がないと素直に受け止めたのですが、私が納得できなかったのは同級生である友人が特別ビザをもらってフランスに留学したことでした。なぜ友人が留学できたかという、彼はある大物に気に入られていたか

※1 **ベトナム子ども基金**・・・ベトナムの子どもたちの教育支援を目的として活動しているNPOです。ベトナム子供基金は日本で募金し、ベトナム国内でホエさんが進めている「ベトナム青葉奨学会」を通し、奨学金として子どもたちに支給されています。また、募金の一部は学校建設などの資金となりベトナムの教育環境整備に貢献しています。「ベトナム子ども基金」は、元日本留学生のホエさんの呼びかけにより1995年から活動を始め今年で15年目となりました。また10周年記念事業として「黄梅奨学金」を新たに始めました。ベトナム子ども基金の募金は特定されたベトナムの子どもの里親になり、その子の成長を見守ることができる、目に見える、感じることでできる海外教育支援です。(ベトナムに小さい家族がひとりできたと思ってください)。\*孤児などを養育する「里親」という意味ではありません。教育資金を援助する「教育里親」です。たくさんの方のご支援、心からありがとうございます。そして、もっともっと「支える人(里親)」募集中です。連絡先・・・e-mail kodomo.kikin@nifty.com、☎03-3946-4121(アジア文化会館 近藤まで)

らです。その大物は当時の大統領の弟でした。彼は警察権力を握っており、ベトナム社会で最も恐れられている人物でした。その彼には1人娘がいましたが、私の友達は今前で勉強もよくできましたから、彼を花婿にするつもりで特別ビザを発行してあげたんですね。

国家の下では皆平等だと思っていた私は、そのような不条理なやり方は当然納得できませんから、国家に抗議をしたんですね。抗議文をあちこち送って、国会でもその問題を取り上げるまでになりました。

しばらくすると特使が来て、「ホエさん、もう行われてしまったことです。これ以上は公にしてはいけません。今政府間の関係が良い国であればどこにでも行かせてあげるから、フランスだけはやめてくれ」と言われました。そういう経緯があって、私は偶然にも日本に留学することになったんです。一番恐れられていた人間とケンカをしたわけですが、本当に、神様はよく私を守って下さったと思います。

ケンカは東京でもしました。駐日ベトナム大使とケンカをしたんです。大使は私たちと約束したことを守らなかったのだから、私は、指導者の資格がないと彼を大使として認めませんでした。何を言っても相手にしなかったんです。すると外務大臣がベトナムから飛んできて、「ホエさん、今日は国家を代表する席で、外国の方も含めてお客さんがいっぱい来ますから、少なくとも大使の手を握ってくれないか」と言われました。私はもちろん断りました。結局私は大使を無視して外務大臣とだけ握手をしました。この時もどうなることかと思いましたが、運良く1か月後、私を説得できなかった大使は国に帰り、新しい大

使が来た、ということがありました。

また私は一時的にですが、現政府に登用されたことがあります。共産党員でもない人間が公職に就きましたから、みな驚き、マスメディアはベトナム政府が本格的に変わったと騒ぎました。そして外国の新聞記者が私のものによくインタビューに来るようになったのですが、私は彼らが来るたびに言いたいことを言っていました。政府から警告は受けていませんでしたが、後で落ち着いて聞いてみると、やはり乱暴な発言をしていました。普通、外国のマスメディアに発言をする場合は、まず党の同意が必要です。党が決定して同意したことしか発言できないんですね。私はほとんど自分の意見を発言してしまいましたから、党をカンカンに怒らせてしまったんです。その後首相になったファン・ヴァン・カイ氏は「やつはけしからん。俺は任命したくないが書記長に無理やり要請されたから、仕方なく任命したんだ。俺はホエのことがとてもきらいだ」と知人に漏らしていたそうです。

それほど私は頑固だということです。(笑)

**司会** ホエさんが一緒に生活をしていた時の工藤さんはどのように見えていたのですか。

**ホエ** 工藤さんは頑固者というよりも、頭がいいなあという印象が強かった。それから考え方が鋭い。工藤さんは寮の責任者ですが、寮ではあまり表に出ませんでした。別の人が表に出て、工藤さんはインテリ層で逃げ回っていたのではないのでしょうか(笑)。しかし頭が鋭いことにはすごく感心しました。直接ぶつかったことはありませんから、お互いに敬遠していたのかもしれないね(笑)。

**司会** さきほどは、2人ともかなりぶつかったというお話でしたが。

**ホエ** その話だけです。本当ならもっとぶつかっていたはずですよ。

**工藤** 私は寮生活で逃げ回っていたのですが、逃げ回る私を捕まえたのはホエさんだったんですね。ブー・タット・タンさんの事件の時に動いたのは私よりも後輩たちだったのですが、彼らは卒業していなくなってしまったんです。その時、世話人を誰にするかとなった時に、ホエさんは工藤にやらせろと言ったわけです。責任者にしないとあいつは動かないから、ということでした。そうやって逃げられないようにされてしまったんです。(笑)

**司会** 新星学寮では、その頃は穂積先生\*がお元気でしたが、お2人は生活の中で穂積先生にどういう影響を与えられて、またそれをどういうふうに取り取られたのでしょうか。

**工藤** ホエ先生がどういう形で穂積先生から影響を受けたかについてはわかりませんが、自分が受けた影響についてはよくわかります。というのは、私が入寮して数日した頃、穂積先生が新しく入った寮生をお茶に呼んでくれました。寮の奥に寮生が集会に使う広間があ

るのですが、穂積先生はよくそこにおられて、私たちをお茶に呼んでくれました。その時穂積先生が、「最近の学生は、学生の間は自由自由と言っているが、就職する段になると、とたんにおかしくなってしまう」。また、「会社の重役がお昼に呼んでくれてもフォークの使い方も知らない」。それに「リンゴの剥き方を知らないものだからまるごと剥いてしまい、すべて落としてしまう。こういうのは本当に就職試験ではまずいんだよな」とおっしゃったんです。それに対して私は「故郷の山形ではリンゴなんか皮ごと食べるから剥きません。フォークで食べるとご飯の味がわからないほど緊張しちゃうから、あんなものは使うもんじゃない」と非常に反発したんです。

そして、寮委員会主催の新入寮生の歓迎会で、新入寮生が挨拶させられたとき、私は真っ先にその話をしたわけです。穂積先生からフォークの使い方を知らないような者もいるとか、リンゴの皮の剥き方も知らないとか言われたけど、そんなもので人間は決まらないと。穂積先生はおかしいと言ったんです。当時は兎玉さんという人が寮長だったのですが、その人がそれを聞いて、「工藤、穂積先生に反発する人ほど後で参るんだ」という話をされたんですね。その時はそんなことあるもんかと思っていたのですが、結局はそうってしまったんです。

※ 2 穂積五一・・・ (財)アジア学生文化協会の創設者である穂積五一(1902-1981年)は、戦後、アジア等発展途上国からの留学生・技術研修生受入れを促進し、各国青年・学生の自主的な共同生活を通して、学問技術の向上のみならず、国や民族を超えた人間的和合を希求し、発展途上国の社会発展に裨益せんとアジア文化会館を創設した。





とか、こちらを左の方にやるとか、言い回しの修正など、私の文章を残したまま直してくれたんです。

マレーシアの留学生会では、あれは名文だと、今でも言われているようですが、それは実はそういう風にして出来たものだったのです。その時私は本当に「参った」と思いました。それ以来穂積先生には対外的に何か影響が出ることは全部相談するようになりました。

その理由の1つはブーさんの事件の前にマレーシアのチュアさんの事件というのがあって、そのチュアさんを救うために文部省に要請文を出そうということになり、私がどういうわけか責任者にさせられてしまったんです。

そこでその要請文を書いたのですが、穂積先生は「近所の八百屋のおばさんでもわかるような文章を書かないといけない。近所の八百屋のおばさんからも『あなた方のやっていることは正しい』と言ってもらえるような文章でなければダメだよ」と言われたんです。それで私は3回書き直して、3回目はよほど良くなったと思いきこれで充分だろうと思っていたら、また同じことを言われたんですね。「八百屋のおばさんにもあなた方がやっていることは正しいと言われるくらいじゃないとダメだよ」と。

こんなに書き直したのにまだ言われるかと思いき、私はじゃあこれはどういう風に直せばいいんですかと穂積先生の下に持って行ったんです。そうしたら先生は私のいる場で、夜中2時頃までかかってその文章を真っ赤に直してくれたんです。全部書き直すのではなくて、私の文章を残したまま、この部分を右の方にやる

ホエさんのほうはいかがでしょう。

**ホエ** 今、穂積先生の顔が目の前に浮かんできました。先生はいつも座禅を組んで、じっと何も話さない。その時は座禅を組んで眠っているように見えるのですが、寮会の時などに突然発言する。先生は全然眠っていない。ずっと聞いていたんです。そういった姿を私は今も思い出します。寮会の時にはいつも穂積先生に対する考え方で寮生の反発があります。私と工藤さんの時代の寮生はいつも先生に反発していました。先生を尊敬はしますが、その先生の意見はみんな攻撃していたんです。ところがやっぱり先生は先生でした。すごく忍耐強い。先生はじっと解決の仕方を考えていたのだらうと思います。

先生のそういう姿を、実は私は今、毎日自分が使っています(笑)。気に入らないことがあっても、慌てずに、反発しないで、まず我慢して、穂積先生の顔を想像します。穂積先生はずいぶん苦しんだのだらう、我慢したからうまくいったんだと。先生がいなければ、私は何にでもすぐ反発してしまいます。先生のおかげで、自分を抑えることが出来ました。

それから先生と学生の考え方に格差がありました。それは私の人生でしみじみ感じたことですが、なるほど、先生はずいぶん苦労したと。それまでは先生は変な人だと同調はしませんでした。自分が責任ある立場にたってみて、初めて先生の苦しみを理解できました。

それから工藤さんは私には言わないのですが、私と工藤さんに少し矛盾があるのは、私は北ベトナムを支持せず、工藤さんは支持をしました。工藤さんだけではなく、その当時はABK、AOTSのスタッフも含め一般の日本人は北ベトナムは絶対に正しいと支持しました。そういう環境の中で、私は北ベトナムを支持しなかったため、ホエさんは反動主義者じゃないかと誤解されたんですね。今、初めて言いますが、私はABKに来ることも大変辛かった。みんなに変な目で見られる。みんなは、北ベトナムを支持するベトナムの愛国者だと。ホエさんだけは変な考え方をしている。そういった周りの思いを痛感していました。

そうした時、私の一番の激励者は穂積先生でした。穂積先生はみんな知らなかったと思いますが、忙しい中を時々車で私のところに来て、話を聞いてくれました。ほんの10分だ

けですが、それくらい先生はわかってくれていたんです。私はすごく感激して励みになりました。日本人はわかってくれなかったのですが、穂積先生はちゃんとわかってくれました。

ある年、先生は背骨の近くにオデキができ、さすがの先生も、今回は耐えられないだろう、もうダメだろうと周りの人は考えていました。そんな時、突然先生は私とグエン・アン・チュンさんと呼んで言ったんです。

「私はずっとベトナム人留学生を見てきたが、これからのベトナムの国を再生するのは、きみら2人だ。でも私が苦しんでいるのは君たちが正反対で対立しすぎることだ。なんとか相違を忘れて団結しなさい。ベトナムのためになってくれ」と。

先生は私たち個人だけではなく、やはりベトナムのことを考えていてくれたんです。

だから今、バンコクを通るたびに泰日経済技術振興協会（TPA）<sup>(※3)</sup>、泰日工業大学<sup>(※4)</sup>を見て、やはり羨ましくも悔しい。穂積先生がいたら、私もベトナムにそれに負けないようなものをつくれたはずだ。先生が亡くなったから、もう私には同じことはできないと…。

(※3) 泰日経済技術振興協会（TPA）・・・1970年代当時の泰日経済摩擦収支の悪化による対日感情の悪化を憂いた、元日本留学生・研修生が中心となり、1973年1月24日、タイ国の経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に設立された公益法人。難しい社会情勢の中、元大蔵大臣であるソンマーイ・フントラクーン氏を創立責任者とし、穂積五一の尽力により実現した。



TPA

(※4) 泰日工業大学（TNI）・・・TPAの35年以上に亘る実績・経験を生かし、日本の技術、日本語の話せる技術者を育てるために2007年6月に開校した大学。大学理事長に東京大学工学部出身の元TPA会長スポン氏、初代学長に京都大学工学部出身の元TPA副会長クリサダー氏ら、元日本留学生連による「日本型ものづくり大学」として注目を集めている。

穂積先生は留学生のため、アジアの小国のためにということをも真っ先に考える方でした。穂積先生はやはり私の人生の大先生であります。

さて、寮の穂積先生と大学の野上茂吉郎先生のほかにもう1人、私の人生に影響を与えた人がいます。それは京都にいた時の下宿のお爺さんです。私は京都大学時代は日本を誤解しており、どこにも行かずいつも暗い表情で毎日を送っていました。そんな時、ある日突然そのお爺さんに呼ばれて、「ホエさん、今日は俺がおごってあげるから、その代わり俺と一緒に四条まで歩くんだよ」と言われました。

そして四条までの道すがらお爺さんは私にこう言いました。

「ホエさん、この家は全部大学出の連中ばかりだけど、俺は小学校しか出ていない。しかし君は俺の毎日の姿を見えますか？ 俺はいつも顔を高く上げています。それは俺の心がきれいだから。ホエさん、君が俺の家にきてから、ずっと君を見ますが、君は何も悪いことはやっていませんね。部屋に閉じこもって勉強したいだけなのに、なぜいつも下を向いて歩いているの？ もっと顔を高く上げて、堂々と歩きなさい」。

その言葉は私に大変元気を与えてくれました。自分の心が悪くなければ何も恐れることはないのだと。

私の人生は3人の大先生のおかげで豊かなものになりました。

**参加者** ホエ先生、タイに泰日工業大学がありますが、ホエ先生もこれから大学をつくる予定はありますか？

**ホエ** 国づくりの基盤やはり教育です。教育は幼稚園から始まりますが、そこは国がちゃんとやっています。ただ最高の教育機関である大学においては、まだまだベトナムは満足できるレベルではありません。だから私の夢は大学をつくることです。私はいつも言っています。最後にやらなければいけないのは大学をつくることだと。これまで私が願ったことはいつも実現できました。大学をつくることもできたらと自信を持っています。

実は私は土地を含めて準備はしましたが、次を担う人、日本から帰った学生にふさわしい人がまだいません。だから今は私の後を継ぐ後輩達の成長を楽しみに待っているところです。私の時代はまず専門学校をつくり、次の世代に大学の工学部をつくらせようという計画しています。日本で勉強した結果、ベトナムでひとつ花を咲かせてあげたい。これが日本の文化、日本の教育であるということをもベトナム社会に示し、ベトナムの発展に貢献したい。それが私の願いです。必ずベトナムに日本留学生たちと共に大学をつくれると、今は硬く信じてます。

幸い今年から学生がどんどんベトナムへ帰ってきます。ですから、私が元気である限りまだまだ夢は捨てません。

神様から「君の役目は終わったからここへ来い」と言われたらその時は素直に行きます(笑)。そういう命令が出るまでは、私は精一杯やりたい。それが私の使命です。

**司会** 本日は貴重なお話をお聞かせいただき、お2人ともありがとうございました。

(終)

ドンズー日本語学校副校長

## グエン ティー ユエンさんに聞く 学校運営と日本語学習者事情



先の対談でご紹介したグエン ドク ホエさんが1991年、ホーチミンに設立した東遊（ドンズー）日本語学校はベトナム最大規模の日本語学校として、およそ20年間に渡りベトナムの日本語教育を牽引してきた。現在、本校のほかに4つの分校（うち一つは留学生・研修生養成センター）を持ち、年間3000人以上の学生が学んでいる。

その教育はユニークかつ厳格で質を重んじ、ベトナムの他の日本語教育機関とは一線を画すのはもちろん、大学の日本語教育をも超える成果をあげているという。

また、同校は毎年日本に100人を超える留学生を送り出しており、現在その数は1000人に達しようとしている。（2010年4月までの累計は990人。）

この4月、日本各地で学ぶ同校留学生を訪問するため、校長のホエさんと共に日本を訪れたグエン ティー ユエン（NGUYEN THI DUYEN）副校長に、ドンズー日本語学校の現状と課題、およびベトナムの日本語学習者事情について伺った。

——— まず、ユエンさんご自身のことを少しお聞かせいただけますか。

私は大学の2年生の時に第二外国語として日本語を学んでいたのですが、家の近くにドンズー日本語学校があるのを知って入学し、1年間で中級クラスを卒業しました。

大学の専門は英語でしたが、日本語の勉強が楽しく、また日本人と会話ができるのが嬉しくて、いつの間にか日本語の先生になりたいと思うようになりました。そして大学を卒業した時、ちょうどドンズーが先生を募集していたので応募してみることにしたんです。ドンズーの先生になるためには6か月の先生養成クラスを終えないといけないのですが、私は3か月で先輩の先生の助手として会社の

クラスを担当し、先生としての生活がスタートしました。

それから3年後の2004年、校長の推薦でロータリークラブの奨学金をいただき日本に留学、名古屋で1年間勉強させていただきました。

帰国後は一つの分校のセンター長をやり、2006年に今の留学生養成センターができたため、そのセンター長になりました。そして1年後に当時の副校長が辞めたので、私が本校に戻って副校長を務めることになりました。

今の仕事は具体的に何、と説明するのは難しいのですが、先生が教えるための準備やスケジュール作り、監督をしています。また私自身も教壇に立っており、昼間は先生に教え、夜は上級クラスを担当しています。

——— では、ドンズー日本語学校はどのような学校なのでしょう。

ドンズーはベトナムで最も大きな日本語学校で、現在3000人以上の学生が在籍しています。ホーチミン市内に日本語学校は他にもありますが、大きなところでも2000人規模です。ただしドンズーは厳しいことで有名なので、本格的に日本語を学びたい、日本語能力検定や漢字検定などの資格が欲しい学生はドンズーに来ますが、単に趣味、楽しみたいという人の中には他の学校を選ばれる人もいます。

私たちの学校は本をたくさん読ませて、た



◀ ドンズー日本語学校。名前の由来は、20世紀初頭に起こった若い指導者を日本で育てようという「東遊（ドンズー）運動」

くさんのことを勉強させますから、1日でも欠席するとついていくのが難しくなります。ですから他の学校で中級レベルを終わっている人でも、ドンズーでは初級のクラスです。

また大学の日本語学科を卒業した人より、ドンズーを卒業した人の方が日本語のレベルは明らかに上です。

ユニークなところでは、漢字825文字を8時間で読めるように、さらに24時間で読み書きできるようになるという学習法を開発しました。4人の先生が交代で8時間、生徒たちを休ませることなく学ばせるのですが、受講者全てに成果を出しています。

当校の先生は専任が22人、非常勤が26人で、その中には日本人講師や、物理、化学、英語など日本の大学受験に必要な基礎科目を教える先生もいます。以前は日本に留学経験のある先生はほとんどいなかったのですが、最近は国際交流基金の短期日本研修に参加する方もおり、先生の質も上がってきています。

—————**留学を希望する人を対象にした留学コースについてお伺いします。**

留学コースは1年、または6か月コースで、朝から夜まで丸一日をかけて、日本語と数学、英語など受験に必要な基礎科目を学びます。1クラスは30人～40人で、約200人が学んでおり制服もあります。9月に入学して1年間学び、翌年の9月に日本に行くというのが一般的です。

ただしこの留学コースには誰でも入れるわけではなく、選抜試験を受けなければなりません。まずベトナムの大学受験（日本のセンター試験

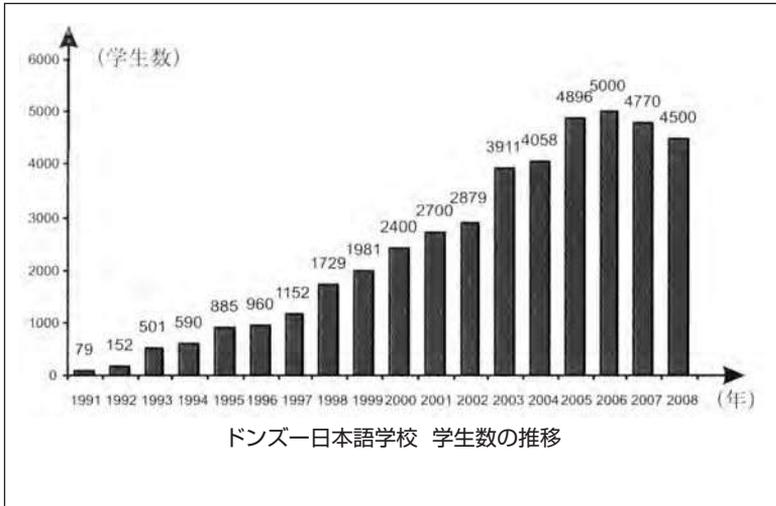


のようなもの)で一定の点数以上が必要となり、ほかに作文や面接をして入学を決定します。入学して日本語ができて、数学や物理、化学の成績が悪ければ日本には行くことはできません。最終的には、200人のうち実際日本に行けるのは150人ほどになります。

留学生達の中には財団等の奨学金をもらえる人もいますが、ほとんどの学生は新聞奨学生として新聞配達店に住みこみ、2年間、朝夕の配達を行いながら日本語学校に通います。これは大変なことですが、ほぼ全ての学生が最後までやり通し、一流大学に進学しています。

—————**一般クラスの場合、学生の日本語を学ぶ目的はどのようなものでしょう。**

昼間のコースに参加している学生は主に3種類に分かれます。まず研修生として日本に行ったことがある人たちで、2～3年日本で研修をして帰国した後、日本語を続けて勉強したいという人。次に、高校を卒業したけれど大学入試に失敗し、専門学校に通いながら外国語の勉強をしている人です。そして3番



——— 開校以来  
2006年まで右肩  
上がりできた生徒  
数が翌年から減少  
しているというこ  
とですが、どのよ  
うな原因が考えら  
れますか。

2006年のピーク  
時には5000人まで  
いきましたが、当  
時は何も考えずに、

目はドンズー以外の機関（留学エージェント等）を利用して日本に留学したいと考えている人たちです。

夜間のコースは、大学で日本語学科に所属している学生で、もっと勉強したいからという人や会社員など普通の社会人です。この人たちは趣味として勉強をしている人も、仕事のため勉強しているもいますが、初級のクラスは趣味、上のクラスに行くに従って仕事等で日本語を必要とする人が増えていきます。

このように、それぞれ目的はありますが、一番多いのは何の目的も無い人ですね（笑）。ベトナム人は大学を卒業してもまた別の大学に通ったり、仕事をしながらも何かの勉強をしている、というのが普通なんです。

ですから必ずしもみなが休まず学校に来るというわけではなく、仕事や子育てなどの事情で来られなくなる人もいます。そういう人も在籍し続けるのですが、ドンズーは期末試験の点数が70%以下だと上のクラスには行けませんから、同じクラスにずっと所属していて、「あなたまだいたの？」という生徒さんもけっこういます（笑）。

ただ先生が足りない、部屋が足りない、何とかしなければと日々を過ごしていましたから、なぜ学生が多かったのか分析する余裕などはありませんでした。

ただ後で考えてみると、当時は日本への研修生募集がとて多く、日本に行くために日本語を学ぼうという人が多かったということ。また日系企業や日本文化の影響で日本語を学びたいという人が多かったにも関わらず、日本語学科のある大学は2か所だけ、日本語学校もドンズー以外にはあまり選択肢がなかったということがあると思います。

一方で今はいろいろな大学に日本語学科ができましたし、新しい日本語学校も次々とできています。そして何より日本の不況による研修生募集が減ったこと。さらにこうした研修生を送る会社がそれまで研修生向けに行ってきた日本語クラスを一般向けに開くようになったことで、日本語学校がとて増えたということもあります。また、授業料を上げたことやベトナム自体の不景気など、複数の要因があるのではと思います。少なくとも質のせいではありません。

——— 日本語の代わりに別の言語が伸びていると実感することはありますか？

日本語学習人口が他の言語にどの程度影響を受けているかはわかりません。中国語はもともと英語と並んで安定した人気がありますから特別に伸びているという印象はありませんが、韓国語が伸びていることはたしかです。

今現在、韓国語専門の学校はありませんが、一般の語学学校や、大学の先生が大学の教室を借りて夜間教えている外国語のクラスなどで、韓国語は学ばれています。

実際、ホーチミンの日本人居住エリアと韓国人の居住エリアを比較すると、韓国のほうが活気があります。レストランも多く、訪れる人も多い。その原因は、やはり韓国ドラマや映画の人気です。最近のベトナムの若者は、洋服や化粧品といったファッション、生活スタイルなどで韓国に憧れを抱いています。

一方で、日本のイメージは、車やバイク、カメラや電機製品が優れているといったものですが、日本や日本人については具体的にイメージできないという若者が多いですね。

——— そうした中でドンズー日本語学校は今後どのような発展を考えているのでしょうか。

学生数が減っているなので、新しいコースを開設して様々なニーズに応える方向で考えています。具体的には、ビジネス、漢字、日本人向けベトナム語のコースなどです。日本人向けのベトナム語コースについてはオリジナル教材も開発中です。

一方でただ広げるのではなく、質を高めたいと考えています。出版もしたいですね。ドンズーの教材は学校に来ている学生だけが使

っていますが、これを市販し、学校に通えない地方の人たちにも活用してもらえればと思っています。

良い意味でも悪い意味でもドンズーは一つのこと集中して取り組む傾向があります。そのため漢字や読解といった部分では日本人にも負けない実力がつきますが、反面聴解が弱くなるなど、バランスが崩れる面があることも事実です。この点を改善し、バランスよく日本語のレベルを上げられるようにできればと思います。

——— 今後も日本語学習機関が伸びていくために、ポイントとなることはありますか。

ベトナムでの外国語学習の人気は就職と深い繋がりがありますが、これからは語学だけでなく、他に何か専門を教えなければ就職は難しいでしょう。通訳者や翻訳者を目指すのでなければ、日本語以外に専門が必要です。例えばITを専門とする学生が日本語を学べば素晴らしい武器になるといったようにです。

実際に今、ある日系のIT系企業が日本語を話せる技術者5000人を養成するために、ベトナムの各大学の学生に奨学金を出して、ホーチミンの日本語学習機関で日本語教育を行うプログラムを始めました。このプログラムでドンズーはもっとも多くの学生を引き受けることになっています。

こうしたところからも新しい可能性を探っていければと思っています。

——— ありがとうございます。今後もベトナムと日本の架け橋となる人材が大勢育つよう、ドンズー日本語学校の発展を応援しています。

## Interview

## クリコフ マキシムさん

(Mr. Maxim Klykov)

東京芸術大学大学院音楽学専攻(博士課程)



自室で愛用のロシア古典楽器ドムラを手に

前(483)号にてご紹介した2009年度(第7回)留学生文学賞奨励作品賞受賞作『再会』。中学校の異文化理解教育プログラムの授業で出会った留学生と中学生が、およそ30年後に外務大臣と外交官として再会するというストーリー。主役2人の自然な“間”と、あっと驚くラストまでの流れが印象的な作品だ。

この作品の作者はロシア人留学生のクリコフ マキシムさん。サンクト・ペテルブルグ国立文化芸術大学でロシア民族楽器と民族音楽オーケストラの指揮を専攻。卒業後、日本の伝統音楽を学ぶため東京芸術大学に留学した。

音楽家がなぜ小説なのか? マキシムさんに文学への思いをうかがった。

★ 留学生文学賞にはどのようなきっかけで応募することになったのでしょうか。

私は長編小説をずっと書いているのですが、友達がそのことを知っていて、私が応募できるような文学賞をインターネットで調べてくれたんです。そこで真っ先に見つけたのがイランのシリネザマフィさんが芥川賞の候補になったというニュースでした。そのシリネザさんが「2006年度留学生文学賞」で大賞をもらっていたということで、この賞のことを私に教えてく

れたんです。私はそれを聞いて、短編小説なら時間をかけずに書けるかなと思い、応募してみました。『再会』は1か月弱で書き上げました。

★ 文学はどのくらい前から書いていたのですか。

子供の頃は物語や詩をたくさん読みました。特に詩は好きで自分でもよく書きました。一番多く詩を書いたのは15歳前後です。自分自

身や異性を強く意識するようになる思春期を迎え、自分の中で湧き上がる何かをどこへ向かわせればいいのか分からない。そんな気持ちを表す手段が詩だったんです。

今自分が昔書いた詩を見てみると、凄いと思います。我ながらよく書いたなと(笑)。当時はインスピレーションが浮かぶと、それを書かないと眠れないということがよくありました。

ただ、時間が経つにつれて、詩が何のために世界にあるのかわからなくなってしまったんです。そのうち詩を書くことが無駄な活動のようにも思えるようになり、徐々に書くことから遠ざかっていきました。

#### ★ なぜまた書いてみようと思ったのでしょうか。

日本に留学して、日本語で修士論文を書いて、先生にチェックしてもらおうようになったのですが、先生から「凄いね」「文章としてよくできている」と誉められて、私自身すごくびっくりしたんです。それで、「自分は日本語で書けるんだ」と思ったんですね。それがきっかけで、日本語で何か小説を書こうと思ったんです。

私は日本に来て良い意味でいろいろな勉強をさせてもらい、変わりました。そこからいろいろなアイデアがどんどん出て、これを何かの形で他人に伝えたいと思い、長編小説を書いてみることにしたんです。

書き始めた頃は母国語で考え、それを翻訳していましたが、これはとても不自然なプロセスでした。ただ何回も翻訳するうちに、だんだん頭の中に日本語のソフトができ上がっていきました。日本に来て5年間で、自分の中身は日本人に近づいてきていると思います。もちろんロシア人の部分はまだまだありますが(笑)、日本人の立場で、日本語で考えることができるようになってきたんです。

この大作は去年の3月、春休み中にいっきに

終わらせようと思ったのですが、時間がなくてうまくいきませんでした。今は今年中にはと思っていますが、論文もありますし、時間的に厳しいですね。

#### ★ 作品のアイディアは、実際マキシムさんが国際理解の授業などをされた経験からヒントを得たのでしょうか。

そうです。(財)国際教育映像協会が主催する「留学生が先生」というプログラムに参加して、4年ほど前から毎月2～3回ずつ、主に中学校に出かけて授業をしています。直接生徒達とコミュニケーションをとり話ができますから、そこでわかったことを『再会』の中に入れました。

#### ★ では主人公であるマカーロフにご自身を重ね合わせているのでしょうか。

作家が物語を書き進める過程で、どう考えていたのかを答えるのは難しいですね(笑)。私は分析することは好きですから、感情的にも客観的にも分析できるはずですが、書いている時は無意識だったと思います。ただ、私は将来政治家になりたいという夢がありますから、恐らくそういう願望が主人公の立場に結びついたのでと思います。

#### ★ 「一期一会」という言葉とラストへの繋がりが印象的です。

私はいつも子供たちの授業に行くと、「一期一会」という言葉から始めるんです。時々生徒たちは笑いますが、この言葉の意味を話すとみんな理解してくれます。

「一期一会」の意味することは、私たちは2度会えるか分からない。今の私たちの出会いは人生で一度だけかもしれないから、この出会いを大事にしようということです。



異文化理解教育の授業で教壇に立つマキシムさん

でも実はそれ以外、この出会いがお互いの将来にどんな影響を与えるのかは、誰も想像できない、という意味もあるんです。

2人は小さな出会いの後で自分の人生を進み、そして大きな再会を果たします。一つの出会いが、国家に影響を与えるような大きな結果をもたらすことになる。この小説の中で語られる政治的な部分は大事ですし、もちろんそうやってほしいのですが、書きたかったのは「出会いはいろいろな可能性を秘めている」ということです。だから一つの出会いはとても大切にしないといけないということなんです。

**★個人の出会いは国家間の大きな壁をも取り払う力を持っているということですね。**

両国の関係はもっと良くなって欲しいですし、もちろん北方領土問題も解決して欲しいと思っています。今、若い世代のロシア人と日本人がもっとお互いを知る機会を作りたいということで、友達と「日露クラブ」というのを作って活動しています。国家は人間の集まりですが、人間一人一人のレベルで見れば解決できない問題は決してないと思いますから、こうした活動がどんどん広がっていけばと思っています。

北海道については私も旅をして、ずいぶん感動しました。地元ではロシア人に対する反感もあるのではと考えていたのですが、稚内や知床でも私はそうした空気は感じませんでした。政治的な問題が解決していないということは事実ですが、一般の人はそれほどロシアのことを悪く思っていない。その時の印象が無意識に作品に反映されていると思います。

**★登場人物の名前などに工夫があります。**

文学作品はただ面白ければいいというのではなく、作者が読者といかにコミュニケーションをとるかということも重要だと思います。読者は作品の中にあるメッセージをどのくらい理解するか。私と同じように考える人もいるでしょうし、全く違う解釈をする人もいるでしょう。それもまた文学の面白いところだと思います。

この作品の中にもいろんなキーワードが隠されていて、それは登場人物の名前もそうですし、日付もそうです。例えば11月9日はベルリンの壁崩壊の日ですが、気がつきましたか？

それから私は俳句が好きなのですが、この作品の中でも短い文章を五七五にしたところがあります。そういった部分を読者がそれぞれのレベルで解釈して楽しんでくれればいいと思っています。

**★次の作品もすでにアイディアがあるそうですが、どのようなものですか。**

これから書く作品には、その北方領土問題の解決プランも入っています。それはとても簡単で、全ての領土を自然に戻してしまおうというものです(笑)。

実は最近「ホーム」(2009年 フランス)という今の地球の状態を記録したドキュメンタリー映画を見たのですが、いろいろと考えさせられました。人間は地球、自然との向き合い方をすぐに変えないと、5年後、もしかすると2年後には死に絶えてしまうかもしれない。

知床は野生動物がそのまま人間と共存しているような素晴らしい環境でしたが、もうちょっとがんばって、観光客も入れないようにして、その場所を自然に戻してあげる。そういう場所を増やしていけば、自然は自らを治療していくでしょう。

これは政治に対する挑戦かもしれませんが、そこに石油があるから採掘しないともったいない、という考え方を変えないと、人間は明日にも滅びてしまうということです。

文学は、テーマが時代に合うかどうかということも重要です。“今”という時代に出せれば、その声は届くかもしれない。だから早く書きたいという焦りはありますね。

### ★博士論文を書きながら、まったく異なる分野の小説を書くと言うのは難しくないですか。

頭の整理は本当に大変です。ただ、小説を書くことで博士論文を疎かにしてしまうつもりはありません。

私は6年前に日本に来ましたが、来年は大学院を修了して、研究活動も全て終わります。運が良ければ博士号をとれるかもしれません。ですからこの一つの大きなステップを、中途半端な形で終わらせてしまったら、自分自身を許せませんし、指導教官の先生をはじめ、今まで私に関わってきた多くの人を悲しませることになってしまいます。

それに私は日本政府の国費留学生として日本に来ていますから、アルバイトをする必要もなく勉強に集中できました。その奨学金は税金で

すから、日本のみなさんに恩返しをしなくてはなりません。今私が日本にできる貢献は論文です。だから論文もただ書けばいいというのではなく、できる限りいいものをつくり、残したいと思っています。

### ★さて、留学生として、ロシアと日本の大学の違いについて、何か感じたことがあれば聞かせてください。

ロシアと日本の一番の違いは、ロシアが個人主義であるのに対して、日本はグループ主義であるということです。グループの中でどうやって動くかがとても大切で、そのグループそれぞれの中にいろいろな決まりがあります。研究室もそうですし、ゼミもそうですね。研究発表会で自己紹介をするときに「東京芸術大学〇〇ゼミ所属です」と言いますが、最初は「所属ってなんだ!？」といつも笑ってしまいました。そうした、グループの中では調和を守らなければいけないのはもちろん、先輩から受け継がないといけない細かいルールがたくさんあります。

ですから私は、当初このグループ主義に関しては多いに違和感を持っていましたが、ある時の研究発表で、その思いは変わりました。

その発表会では、ある人の発表がうまく進まなくなってしまった時、同じゼミの人たちが、「こういうことを言いたいんだよね」とフォローを始めたんです。その発表者は、みなへの助けを借りて何とか発表を終えるような状態でしたが、その後もみんなの関係は変わりませんでした。

もしロシアだったら、誰かが間違いをすると、みな笑って批判するばかり。誰かが間違えたら逆に嬉しいという社会ですから発表者を殺して終わりでしょう。人間関係も個人優先で調和を守るという概念は無いと思います。ですから、日本の大学院でのこうした出来事は、私に大きな感動を与えてくれました。



ただ、日本社会全てがそうなのかはわかりません。私が授業に行く中学や高校には、共感や心配りが感じられず、逆にグループ主義が個人を抑え込んでしまっているようなクラスも見受けられます。個人が自分の声で発言せず、仮に発言しても仲間の様子を気にしながらだとか、誰かが間違うとみんなで笑ったり責めたりと、グループ主義の悪い面が目につくことがあるのも事実です。

#### ★マキシムさんご自身は日本に来てどのように変わりましたか。

私は、来日した当初は凄いエゴイストだったと思います。最初は研究生として資料を集めたら帰国するつもりでしたから、日本人とはほとんど交流しませんでしたし、誰の手助けもいらないう感じで、人との付き合いを断っていました。

それが変わったのは、来日してから2年近く過ぎた頃から。自分は1人では無く、グループの中でお互いに助け合って生きているということがわかったからです。

先生に、「研究室の引っ越しをするから、手が空いている人は手伝ってくれないか？」と言われた時、以前の私なら授業に関係ないからと、さっさと帰ってしまったと思います。研究発表会でも自分の発表が終わったら先輩や後輩の発

表など聞かずに帰る。

それが普通だったのですが、今考えると、逆にそんな行為が不思議に感じられます。でも少なくとも4年、5年前までの自分はそういう人でした。

今は一つの共同体の中に存在するという意識ができて、先生の引っ越しの手伝いも、先生だから仕方がないとか、いい成績をもらいたいという下心からではなく、「仲間だから時間があたら手伝いたい」と自然に思えるんです。

#### ★卒業後はどのような道を歩みたいと考えていますか。

目標は日本で文学の世界に身を置くことです。そして作品の中にいろいろなメッセージを込めて、社会に発信していきたいと思っています。

大学の論文も、書いて引き出しの中に入れて終わりではなく、実際は多くの人に読んでもらいたい。良い成績をもらうことも大切ですが、自分の論文は社会の役に立つ、もっと価値のあるものだと思っていますから、チャンスがあれば分かりやすく書き直して、広く世間に出したいとも考えています。

もちろんずっと音楽の世界で来ましたから、ロシア民族音楽を使ってロシアと日本の架け橋となるような活動をしてみたいという思いもあります。

また一つの夢として、自分が理想とする教育ができる私立学校をつくりたい。

とにかく、やりたいことはたくさんありますが、ビザのために仕事を探すという発想ではなく、もっと積極的に社会に出て、様々なことにチャレンジしてみたいと思っています。

#### ★次回作はもちろん、様々な方面でのご活躍を楽しみにしています。



<奨学金などの日本留学に関する情報は JPSS で！ <http://www.jpss.jp/>>

## じょうほう イベント情報

### ■タイ・フェスティバル

タイ・フェスティバルはタイの伝統・文化や両国の友好関係について、日本の方々に幅広く紹介するイベントです。会場では厳選されたタイ料理・タイの製品・民芸品などを販売する他、タイに関する様々なサービスを提供する出店者、NGO/NPO 団体の参加が予定されています。

- ・日時：2010年5月15（土）・16（日）
- ・場所：代々木公園イベント広場（千代田線他「代々木公園駅」下車）
- ・主催：タイ王国大使館

### ■第3回 メコン川音楽祭2010（神奈川）

タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナムのトップアーティストが一同に集まる世界でも類のないチャリティーコンサート「メコン川音楽祭2010」が、今年で第3回をむかえる事になりました。

- ・日時：2010年5月19日（水）18：00～21：00
- ・場所：神奈川公会堂 横浜市神奈川区富家町1-3
- ・主催：メコン川音楽祭2010 実行委員会事務局（☎045-321-1167）

### ■ラオス・フェスティバル

第2回ラオスフェスティバルが開催されます！（雨天決行）

- ・日時：2010年5月22日（土）、2010年5月23日（日） 10：00～19：00
- ・場所：代々木公園（千代田線他「代々木公園駅」下車）
- ・主催：ラオス人民民主共和国大使館、東京国際学園高等部、さくら国際高等学校

### ■マイナビ国際派就職 EXPO2010 東京サマー

グローバル人材のためのジョブフェアです。2010年秋入社、2011年入社いずれの方もご参加いただけます。

- ・日時：2010年6月21日（月）・22日（火） 10：00～17：00（入場受付終了）
- ・会場：東京ビッグサイト（西4ホール）
- ・参加資格：① 日本国外の大学、大学院、MBA を卒業または卒業予定の方  
② 1年以上の交換留学経験のある方 1年以上の予定で交換留学中の方  
③ 日本語＋1カ国語、どちらもビジネスレベル以上の語学力をお持ちの大卒以上の方
- ・参加方法：マイナビ国際派就職（<http://global.mynavi.jp/>）への会員登録が必要です。

# MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

## 2010年2月

### 特別会員

(1口)

張 瑞騰 台湾

### 賛助会員

工藤正司 市川市

### 正会員

(3口)

籾下勝 千葉市

(2口)

澤登千恵子 国立市

(1口)

田中洋一 柏市

増岡信男 流山市

田守智恵子 札幌市

浜田洋子 豊島区

アジア21世紀奨学財団 渋谷区

堀香奈美 横浜市

安藤彦太郎／陽子 杉並区

宮原彬 長崎市

アジア・コミュニティ・センター

21 文京区

山海保 葛飾区

萩原伊助 千葉市

岩井秀明 川越市

福田和子 熊本市

外山経子 八王子市

坂本健 西東京市

清水澄子 小金井市

石渡荘介 足立区

平田熙 松戸市

田中武雄／多美子 仙台市

### ご寄付

山口憲明 日野市

平岡昭子 目黒区

籾下勝 千葉市

田中武雄／多美子 仙台市

## 2010年3月

### 特別会員

岩國修一 港区

### 賛助会員

(株) エレクトロデザイン

### 正会員

(3口)

加倉井弘行 豊島区

(2口)

清水勇治／泰代 高崎市

林均 横浜市

埜村宗都 福岡市

(1口)

本田憲之助 熊本市

李景珉 世田谷区

細川哲士 八王子市

白石勤 千葉市

脇英親 文京区

岩井秀生 入間市

堤井信力 横浜市

張延 取手市

大井裕子 さいたま市

奥山義夫 町田市

斎藤伸子 豊橋市

野口明美 三鷹市

杉本宏樹 杉並区

植田泰史 那珂市

坪井健 横浜市

駒場一成 大田区

漆畷敏治／才子 小山市

渋谷寧伸 西宮市

大村光 世田谷区

武藤久美子 葛飾区

松本誠一 文京区

戴志堅／陳艶萍 横浜市

張本松胤／王仁沁 相模原市

丸井英二 文京区

(財) 守屋留學生交流協会 千代田区

リンク情報システム(株) 渋谷区

古川恵世 我孫子市

田中利恵子 東村山

久保哲也 北区

柏原きみ 北区

中曾根信 大分郡

濱田修 松原市

飛田篤雅 那珂市

山下靖典 中央区

杉浦壽康 岡崎市

西尾仁美 函館市

(財) 岡本国際奨学交流財団 千葉市

石川清子 渋谷区

泉憲子 日野市

坂詰貴司 船橋市

牧美保子 所沢市

高道俊彦 富山市

竹田肇／和子 中野区

新宿日本語学校 新宿区

伊藤源之 東久留米市

真弓忠 渋谷区

西谷隆義 土浦市

山口誠 吾妻郡

孟令樺／計宇生 渋谷区

村田忠禧 川崎市

遠東国際貿易(株) 豊島区

法政大学国際交流センター 千代田区

大澤龍 品川区

杉原正勝／バーバラ 八王子市

小林貞子 横浜市

岩佐佳英 文京区

倉内憲孝 池田市

田中泉 練馬区

東京都市大学横浜キャンパス留學生課 横浜市

鈴木順子 須賀川市

中村尚司 京都市

### ご寄付

大谷里恵子 藤岡市

栗原静子 気仙沼市

戴志堅／陳艶萍 横浜市

新美勝康 西尾市

田中美智子 市川市

仁田裕子 所沢市

牧美保子 所沢市

松井正枝 新座市

大島雅子 千代田区

孟令樺／計宇生 渋谷区

河合秀高 横浜市

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

日本留学生活に必要な最新のニュースを  
毎月届けます！

## ABK留学生メールニュース

ビザ手続き関連情報 医療・保険情報  
就職アルバイト情報 イベント情報  
各種試験情報 奨学金情報  
外国人相談情報 他

登録はWEBから

<http://www.jpss.jp>

## アジアの友 2010年4-5月号

2010年4月20日発行（通刊第484号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：(<http://www.abk.or.jp/>)

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

第85回

参加者募集中!

# 帯津良一先生講演会

テーマ：がんはともだちPart8

がんと養生 第1回

がん治療の要諦は  
医療と養生の統合にあり

開催日時：2010年5月13日(木)

19:00～20:30 \*開場時間は18:30から。

\*講演終了後15分ぐらいの気功実技指導(帯津式新呼吸法「時空」)があります。

会場：アジア文化会館(ABK)101研修室(地下1階)

文京区本駒込2-12-13 都営三田線千石駅A1出口徒歩3分

講師：帯津良一先生 帯津三敬病院名誉院長・日本利フック医学協会会長他

参加費：3,000円 \*協会会員・語学講座受講生2,000円

\*参加費は当日受付にてお支払下さい。

## 先生からの一言

がんは身体だけの病ではなく、心にも生命にも深くかわる病です。主として身体だけに焦点を合わせた西洋医学だけでは手を焼くのは当然なのです。ここはどうしても医療と養生を戦略的に統合していかなければなりません。がん治療の要諦は、じつはここにあるのです。

2010年度 帯津良一先生講演会予定のご案内

年間テーマ：がんはともだちPart8 がんと養生(全5回)

- ①2010年5月13日(木) ②2010年7月8日(木) ③2010年9月16日(木)  
④2010年11月11日(木) ⑤2011年1月20日(木)

お問合先・お申込先：(財)アジア学生文化協会 帯津先生講演会担当まで  
受付時間：10:30～19:00(平日)

\*但し、上記時間帯以外は代表電話で直接承ります。

TEL：03-3946-4121(代) FAX：03-3946-7566

E-mail：asca50com@abk.or.jp

HP：http://www.abk.or.jp/